

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

9 ピアサポーターとしての働き方

獲得目標	●労働者としての権利と法律、倫理基準について学ぶことで、支援者として働くことに当たって必要な知識を得る。
------	--

時間	30分
対象	ピアサポーター

<伝えたいこと>

- ・労働者としての権利と法律を知りましょう。
- ・倫理基準について知りましょう。

出所：平成30年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（身体・知的分野））
障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究 専門研修テキスト

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

9 ピアサポーターとしての働き方

伝えたいこと	講義の構成
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">労働者としての権利と法律を知りましょう 倫理基準について知りましょう</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 労働者としての権利と義務 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 労働契約の締結によって、労務を提供する義務などを負う ➢ 賃金不払いなど不当な扱いを受けた場合、労働者としての権利を行使できる。職場を変えることも選択肢の1つ（職業選択の自由） □ 働く準備 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 体調管理、働く上での技術や知識 □ 労働法等の法律関係 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 労働条件の原則 それに加えて、職場ごとの約束事がある。 □ 働く上での心構え <ul style="list-style-type: none"> ➢ 責任と義務 □ 就職が決まった直後に重要なこと <ul style="list-style-type: none"> ➢ 労働条件の通知と雇用契約 □ 雇用契約書締結 □ 倫理及び守秘義務 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 多くのピアサポーターが同意する倫理綱領を作成 ➢ 守秘義務は倫理上必要 利用者との信頼関係を築くために大切

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

【演習⑤】10 ピアサポーターとしての働き方の振り返り、気付きの共有

獲得目標	<p>●労働者としての権利の行使や支援者として働くに当たっての倫理について、具体的事例を通して考える。</p>
設問	<p>□ 以下の事例について、グループで意見交換をしてみましょう。</p> <p>①ピアサポーターとして働いてすぐに自分の強みを活かした役割をもらえないときには、施設長など業務を管轄する者に責任があるため、申し出たほうが良い？</p> <p>②労働時間や給与が契約と違う！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある福祉サービス事業所にパートタイマーで採用されました。契約では残業はないという話だったのですが、結局、他のスタッフが仕事をしているのに早く帰ることもできません。1日1時間は残業をしていたのですが、もらった給与明細をみると契約した時間分しか入金はされていませんでした。 <p>③他の人に言わないでという相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のGさんから「あなただから話すんだから、誰にも言わないで」と前置きされたうえで、同じサービスを利用しているKさんに数万のお金を貸していることを相談されました。 <p>④同僚の守秘義務違反をどうすればいいの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場の同僚と仕事が終わった後、食事に行きました。仕事の話になり、利用者さんの名前や最近の様子などを店の中で同僚が話し始めましたが、周囲には他の客もいます。

⇒ファシリの留意点についても、是非ご意見お聞かせください。

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

1 1 セルフマネジメントとバウンダリー
～ピアサポーターが葛藤しやすい状況～

時間	30分
----	-----

獲得目標	●労働者としての権利と法律、倫理基準について学ぶことで、支援者として働くことに当たって必要な知識を得る。
------	--

対象	ピアサポーター、専門職
----	-------------

<伝えたいこと>

- ・ 役割葛藤、二重関係などピアサポーターが葛藤しやすい状況を知る。
- ・ **バウンダリー**を意識し、自分と相手を大切にしている関係性を学ぶ。
- ・ 病気や障害をもちながら働く上でのセルフケアの大切さを知る。

出所：平成30年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（身体・知的分野））
障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究 専門研修テキスト

各障害共通言語へ

<伝えたいこと>

- ・ 役割葛藤、二重関係などピアサポーターが葛藤しやすい状況を知る。
- ・ **「他者との適切な境界線と距離感」(バウンダリー)**を意識し、自分と相手を大切にしている関係性を学ぶ。
- ・ 病気や障害をもちながら働く上でのセルフケアの大切さを知る。

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

1 1 セルフマネジメントとバウンダリー ～ピアサポーターが葛藤しやすい状況～

伝えたいこと

講義の構成

役割葛藤、二重関係などピアサポーターが葛藤しやすい状況を知る

□ 役割葛藤

- 「自分は当事者と支援者のどちら側なのだろうか」と思い悩む
- ※講義では、図解を持ちながら具体例を用いて説明できると良い



支援者としての葛藤（例）

- ・当事者の気持ちに共感しすぎて、俯瞰（ふかん）する立場になりきれない（入り込みすぎてしまう）
- ・支援者になりきれない
- ・支援者としてのスキルが足りない気がする
- ・周囲の支援者と対等に話をする事ができない。
- ・支援者としての自信が無く、他の専門職に遠慮してしまう
- ・当事者目線で問題意識を感じたときに、どう支援チームと共有したら良いか迷う
- ・他の支援者と同等の支援者・仲間として職場内・利用者に認知されているのか気になってしまう etc…

当事者としての葛藤（例）

- ・自分は当事者らしくない
- ・当事者から違う目で見られる
- ・クライアントに当事者として受け入れてもらえない
- ・専門職の思いをくみ取ってしまい当事者としての意見を言えないことがある
- ・実際の支援と当事者としての立場や思いのはざまでゆれる
- ・障害の重さや特性が異なる方、職場内のスタッフに自身がどのように映るのか、当事者と職員のはざまでもどちら側にも馴染めないではないのか、と気になる etc…

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

1 1 セルフマネジメントとバウンダリー ～ピアサポーターが葛藤しやすい状況～

伝えたいこと

役割葛藤、二重関係などピアサポーターが葛藤しやすい状況を知る

講義の構成

□ 二重関係（多重関係）

- 複数の関係性を持つ。利害関係が複雑になることから倫理的に好ましくないとされている
- ※講義では、図解を持ちながら具体例を用いて説明できると良い

1. 専門職との関係



(従来の関係性) 支援者と利用者



(新たな関係性) 同じ職場の同僚



2. 当事者との関係



(従来の関係性) 当事者としての仲間



(新たな関係性) 支援者と利用者



同じ相手に対して複数の関係性を持っている

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

1 1 セルフマネジメントとバウンダリー
～ピアサポーターが葛藤しやすい状況～

伝えたいこと	講義の構成
<p>自分と相手を大切に する関係性を学ぶ。</p> <p>「他者との適切な境界線と距離感」 (バウンダリー)を意識し、</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 共感性の強いピアサポーターだからこそ想定されるリスク 当事者に寄り添った支援 ⇔ ・入り込みすぎてしまう・<u>受け入れすぎてしまう</u> ・「自分がなんとかしなくては」と<u>抱え込みすぎてしまう</u> (例) 金銭管理が<u>苦手な</u>利用者から「お金が足りなくなったので貸してほしい」と頼まれて、ついつい貸してしまう □ 「他者との適切な境界線と距離感」 (バウンダリー) <ul style="list-style-type: none"> ➢ お互いの境界を尊重し、入り込みすぎない ➢ 相手が抱えている問題を自分が過度に背負わないで、相手が自分の力で背負う手助けをする □ 当事者の死 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 起こり得る状況を想定し遭遇した時の受け止め方や対処を考えておく ➢ 自分ひとりで解決しようとせず、職場や支援チームで共有